

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671200131
法人名	社会福祉法人 有誠福祉会
事業所名	グループホームまことの家
所在地	徳島県名西郡石井町高原字桑島558-1 (電話) 088-675-3177

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 6月 26日

## 【情報提供票より】(平成19年 5月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年 1月 6日
ユニット数	1 ユニット
職員数	7 人
利用定員数計	9 人
常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.1人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	4 階建ての	4 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,800 円	その他の経費(月額)	7,000円(その他実費相当額)
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
または1日当たり 800 円			

### (4) 利用者の概要( 5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低 78 歳	最高 99 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・手束病院	・浜崎歯科医院
---------	-------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園地帯に位置している。建物の4階に位置した特性を活かし、広い屋上を庭園として草花を植えたり、野菜を作ったり、時には机を持ち出して食事をする等生活の場として活用している。日常の生活の中では、リハビリを兼ねて型打ちされたプラスチックの花弁を離す作業を取り入れている。利用者は仕事をして社会参加をしている満足感が得られ、生き生きとされ良いリハビリになっている。看取りの段階になられた方には利用者・家族の意向にそって、家族・医療機関・職員間の連携を密にして協力を得ながら、馴染みの中で過ごせるよう取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回では、緊急かつやむを得ず何らかの身体拘束を行う場合の説明はされていたが、同意書の書式が整備されていなかった。今回は書類もきちっと整備されていた。食事については利用者と同じ食事を摂ることが出来ていない。今後同じ物を同じテーブルで食べることが出来るよう取り組まれない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が話し合い、評価の意義を深めながら自己評価に取り組まれ作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を定期的開催し、利用者の現状やグループホームの取り組み等を報告して話し合いをされている。地域の方たちの利用者への理解も深められ、地域の一員として受け止められるようになり交流の機会も出来ている。町とはいつでも相談・助言が得られる関係になっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年3回の家族会の時はもとより、家族の訪問時には何でも気軽に話しあえる雰囲気が出来ている。今までに大きな苦情はないが、問題が起きた時には速やかに対応できるよう職員間で常に話し合っている。意見箱の設置・苦情窓口の明示も出来ている。日常の生活はホーム日よりや電話などで伝え家族の意向の確認もしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>併設のケアハウスの利用者と一緒に地域の祭りや、年2回行われる道の清掃、用水の清掃に地域の一員として参加し交流を深めている。また、外出や散歩の時には会話を交わすよう心がけている。グループホームには、近隣の方の訪問もあり交友を図っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着したグループホームとして独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全ての職員が理解し共有されており、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りへの参加や年2回行われる清掃活動にも積極的に参加し、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を実施する意義を全職員が認識しており、日々の支援に活かしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月に1回開かれ、利用者の現状やグループホームの取り組み等を報告して話し合い、次回開催に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議はもとより市町村担当者とはいつでも相談・助言が得られるような関係作りに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「まことだより」を年3回定期的に発行しており、「家族会」も年3回開催している。その他個々に合わせた報告・支援がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、家族の面会時に意見や要望を常に問いかけて、何でも言える雰囲気作りが出来ている。出された意見・要望はミーティングで話し合わせられ運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームでは、職員と利用者との馴染みの関係の大切さを理解しており、職員の異動は最小限に抑えている。職員採用の際にも早く馴染みの関係がつけられるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には、グループホームで大切なことは何かを話し合い、利用者に受け入れていただけるよう会話の仕方を勉強している。また、スキルアップのために段階に応じた研修を受講し、研修内容は全職員に報告会等で報告し共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に積極的に参加し、同業者とのネットワークづくりが出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学してもらい、利用者・職員とも顔合わせをした上で入居されている。また、入居されたあとも数日は出来るだけ家族の方の面会を願ひし、家族と相談しながら職員も利用者への理解を深め、利用者の納得と安心が得られるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は一つの家族として生活している。職員は家族に対するように温かい支援をし、利用者は職員に対して感謝と労わりの気持ちを持って接している。夜勤の時など「少し寝えよ」と声掛けがある。また、人生の先輩として教えてもらう事も多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で本人の意思の把握に努めている。意思疎通困難な方には家族の意向を踏まえ本人の立場にたった支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、本人はもとより家族の意向・全職員の気づきと意見を取り入れて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	作成された介護計画は定期的に見直しがされている。利用者の状態に変化のあった時には随時見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして疾病の早期発見、早期治療につなげている。訪問看護師の応援もあり、利用者本人はもとより家族にとっても医療の面での安心につながっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも気軽に相談でき、緊急時に対応してもらえる協力医療機関がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の利用契約時に看取りについての説明をし、同意書ももらっている。入居され状況が変化された時には、本人・家族の意思を確認し、希望される場合には、家族・医療機関との連携を密にとり、応援を得ながら出来るだけ馴染みの環境で、終末を迎える支援が出来るよう全職員の意思統一ができています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄のときの誘導、声掛け等さり気なくされている。利用者の言われる言葉には反論せず傾聴し、受容するよう心がけている。記録は個別にされており、プライバシーへの配慮については全職員に周知徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた支援がなされている。不十分なことには、後でさり気なくフォローしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の管理栄養士による献立を基に調理されている。季節の物、利用者の希望などにより変更する事もある。配膳と後片付けは利用者と一緒にいるが、調理は難しいようである。テーブルには利用者と一緒につき個々に合わせた食事支援がなされていた。	○	職員はお弁当持参であり、利用者と同じ食事を摂っていないため、今後同じ物を同じテーブルで食べることが出来るよう今後の取り組みが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそった支援がなされている。入浴を希望されてもバイタルチェックにより入浴が難しい時には、足浴、シャワー等本人が満足されるような方法で対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かし、配膳・食器洗い・洗濯物たみ・花の水やり等楽しみながらしている。また、型打ちされた造花を切り離す軽作業をリハビリも兼ね利用者全員が仕事とらえて、一生懸命行っている。社会参加をしているという自信につながり作業する利用者の表情は生き生きしており、収入は外出時などの食事代等に当てている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の高齢化などで、全員揃っての遠出は難しくなっているが、天気の良い日には散歩に出かけ近隣の方々との交流を楽しみ、また、花見等季節ごとの外出を楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームが建物の4階にあり、エレベーターのドアが玄関ドアとなっている。施錠はされておらず、常時職員が見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施し災害時の対応を学んでいる。また、消防署、隣接する医療施設にも協力してもらえるよう連携を密にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事摂取量の記録は出来ており把握されている。水分摂取についても個々に把握し、記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームは建物の4階にあり、ドアを開くと季節の花や季節感のある手作りの作品が空間に広がり、優しく迎えてくれる。また、随所にソファが置かれ、思い思いに過ごせる空間がある。東側には広いベランダがあり、ベランダにはプランターが置かれ、花やたくさんの野菜が植えられ外の空気と季節を感じながら、利用者と職員と一緒に楽しみながら世話をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや写真等が持ち込まれ、一人ひとりの好みにあった部屋作りが出来ている。		